

令和4年度 年度末自己評価書

愛南町立平城小学校

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

年度末

1 正しい子

重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果				
					肯定割合	4	3	2	1
あいさつができる子を育てる。	指標① 進んであいさつをしているか。 目標値 児童・保護者・地域住民・教職員の90%以上が肯定割合(4+3)	中間期	A ◇地域や児童、教員の肯定率は90%を超えており、低い数値の保護者でも87%となっており、A評価である。前年度の比較においては教職員の評価が16ポイント上昇している。一方で、児童自身の評価に比べて、保護者の評価が低くなっており、家庭でのあいさつができていないように感じている保護者が多いと思われる。また、一番高い評価をしている教員からは、挨拶ができる児童とできない児童との差が広がっている、挨拶の声が小さいという意見が見られ、今後の課題と思われる。 ◆児童会の取り組んでいる「すまいるあいさつデー」などの児童を中心とした活動に注力しつつ、教員や保護者といった周りの大人からの継続的な声掛けをしていく。また、集団のリーダーとしての高学年に手本となるように働きかける。	児童アンケート① 保護者アンケート① 地域住民アンケート① 教職員アンケート①	90 87 93 95	49 31 21 11	41 56 71 84	9 12 7 5	1 1 0 0
		年度末	B ◇児童の評価は90%から93%へと高くなっている。しかし、保護者・地域住民・教職員は低くなっている。特に、教職員は95%から79%へかなり評価が下がっている。教職員の意識が高くなっており、全員が一定の声の大きさで言えるようになってきているかという視点で見たところ、達成できていないと感じるのではないかとと思われる。 ◆あいさつの意義について、全教職員が一丸となり、児童に繰り返し指導しているところである。引き続き、周りの大人から働きかけていきたい。また、授業中の発言の声の大きさなども合わせて指導し、徹底していく。	児童アンケート① 保護者アンケート① 地域住民アンケート① 教職員アンケート①	93 85 89 79	46 36 11 0	47 49 78 79	7 15 11 21	1 0 0 0
返事ができる子を育てる。	指標② 返事がしっかりとできているか。 目標値 児童・教職員の90%以上が肯定割合(4+3)	中間期	A ◇児童、教員ともに、肯定率が90%近くおり、A評価である。特に、教員は前年度と比べて24ポイントも増加している。しかし、児童は「とてもそう思う」の割合が7割を超えているのに対し、教員は「だいたいそう思う」の割合が9割近い。児童と教員の間、「返事ができている」ことに対する認識の違いが見られる。挨拶と同じで、できている児童とできていない児童の差が見られるという意見が多く見られた。 ◆話を聞いていないと、返事をすることができないので、まず、人の話をきちんと聞くことを授業を通して伝えていく。学校生活の中で、機会を見つけて、その都度声掛けをしていく。授業を通して訓練していく。	児童アンケート② 教職員アンケート②	89 95	45 5	44 89	10 5	1 0
		年度末	B ◇指標①と同じように、児童の評価は89%から92%へと高くなっているものの、教職員の評価は95%から84%へかなり評価が下がっている。教職員の意識が高くなっており、全員が一定の声の大きさで言えるようになってきているかという視点で見たところ、達成できていないと感じるのではないかとと思われる。 ◆引き続き、授業づくり部会が提案している聞く「かきくけこ」を活用して、授業中にしっかりと話を聞くように指導を続けていく。また、あいさつと合わせて、全員が大きな声で言えるよう声の大きさの指導を徹底する。	児童アンケート② 教職員アンケート②	92 84	48 5	44 79	7 16	1 0
学校関係者評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○声の大きさより、相手の顔を見て誰と挨拶をしているのかを意識させたい。 ○集団ではできるが、個別になるとできないケースが見られるが、なぜ挨拶が必要かを子供に理解させることが必要。 ○高学年の児童がお手本となっている。 ○安全面からも挨拶は大切。名前を読んで挨拶をしている地域もある。 ○保護者ができているか、家庭内の挨拶の現状はどうだろうか。挨拶返事は生活習慣の基本なので、大人が手本となり、家庭でしっかりと働きかけを続けることが大切。 	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会が毎月取り組んでいる「スマイルあいさつデー」の活動の他、人権委員会が各学級を回って行う挨拶運動や、6年生が挨拶係を決め、各玄関で挨拶を行うなど、高学年が中心となり児童主体の活動が広がってきた。子供たちの頑張りを称賛し、意欲を継続させると同時に、挨拶が相手に思いを伝える大切なものだということを理解させる。また、家庭への協力を呼びかけ、子供たちの1日が挨拶で始まり挨拶で終わるよう啓発する。 ○返事は、相手の言葉を受け取った意思表示であり、相手の話をしっかりと聞くことが、相手を思う気持ちからなることを理解させ、お互いを大切にすることを育てる。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や返事の意義について具体的な指導を続けることが必要だが、声掛け事案や不審者情報もあり、その点も考慮する必要がある。 ○声の大きさだけでなく、誰に対して声掛けをして答えるのか、目を見て相手に伝える・答えることの大切さを子供たちに理解させたい。 ○日常生活習慣で身に付けさせられるよう保護者の協力を求める。 		<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶は、相手を思いやる気持ちの表れであり、人として当たり前のことであるので、ただ、挨拶をするから相手のことを思って挨拶をする次の段階へ進めるよう、引き続き児童会、人権委員会、6年生の挨拶運動に加え、登校時の校長との挨拶などで頑張っている子を紹介するなど、全体の意欲を高める。 ○挨拶に相手の名前を加え、誰に対しての挨拶かを明確にし、挨拶の際の視線や表情、声の大きさなども考えさせる。 ○学校の取り組みを家庭へも周知し、学校、家庭相互の連携のもと取り組めるよう啓発し、協力体制を築く。 						

2 考える子

<p>確かな学力の定着と向上に努める。</p>	<p>指標③ 授業が分かっているか。</p> <p>目標値 児童・教職員の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	<p>中間期</p> <p>A</p>	<p>◇児童、教職員ともに肯定率が90%を超えており、A評価である。しかし、全体的に見た評価はAであっても、児童一人一人を見ると個人差が大きいことや学力の二極化が見られるなど課題は見られる。 ◆日々の授業の中で、個に応じた指導を継続することは難しく、休み時間や放課後の補充学習で対応している。今後も計画的に補充学習を設定し、個に応じた指導ができるようにしていく。</p>	<p>児童アンケート③</p> <p>91 57 34 7 2</p> <p>教職員アンケート③</p> <p>95 5 89 5 0</p>
		<p>年度末</p> <p>B</p>	<p>◇児童の肯定率は中間期より5ポイント上がって中間期に引き続きA評価であるが、教職員の肯定率は11ポイント下がってB評価となった。2学期の学習内容が児童に十分定着できていないと学期末に感じる教職員が多かったのではないかとと思われる。また、復習や個の課題に応じた指導をする時間が取りにくいことも課題としてあげられる。 ◆EILSのテスト等、既習内容の広い範囲から出題されるテストが1学期末より始まっている。それらの結果を基に、児童の定着の実態をしっかりと分析・把握し、それに合わせた指導を計画的に行い、授業改善を図る。</p>	<p>児童アンケート③</p> <p>96 60 35 4 0</p> <p>教職員アンケート③</p> <p>84 5 79 16 0</p>
	<p>指標④ 授業でICTを積極的に活用しているか。</p> <p>目標値 児童・教職員の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	<p>中間期</p> <p>A</p>	<p>◇児童、教職員ともに肯定率が90%を超えており、A評価である。昨年度末に挙げられていた学級による使用状況の差も解消され、休日の活用も各学級の足並みを揃えて実施できた。 ◆授業の中で活用する機会は増えたが、授業の各場面での有効な活用方法や、ICT機器を使った対話の方法、ICT機器活用のモデルなど課題も見えてきたので、その活用方法について、研修や情報交換を積極的に行っていきたい。</p>	<p>児童アンケート④</p> <p>98 79 18 1 1</p> <p>教職員アンケート④</p> <p>95 53 42 5 0</p>
		<p>年度末</p> <p>A</p>	<p>◇児童の肯定率は90%を引き続き超えているが、教職員の肯定率は90%を下回った。児童は、ICTを活用した授業を楽しく分かりやすいと感じており、ICTを活用することの効果は感じているが、使う場面やアナログとデジタルのバランスなどの課題が出てきていると思われる。 ◆児童がICTを活用した授業を分かりやすく楽しいと感じていることを踏まえて、対話的な学びを支援するツールとしての活用方法や、授業の各場面での活用方法など、ICT活用の授業モデルを提示する。</p>	<p>児童アンケート④</p> <p>95 76 19 4 1</p> <p>教職員アンケート④</p> <p>89 32 58 11 0</p>
	<p>指標⑤ 家庭学習を毎日15分×(学年)以上しているか。</p> <p>目標値 児童・保護者の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	<p>中間期</p> <p>C</p>	<p>◇児童79%、保護者77%の肯定率でC評価である。多くの児童は家庭学習の習慣が身に付いており、学習時間を確保することができている。しかし、家庭での学習が習慣化できていなかったり、自主学習等を工夫して学年に応じた学習時間を確保できていなかったりする児童も見られる。 ◆やるべきことがきちんとできるようにする。そのために、家庭学習の習慣が身に付いていない児童については、家庭と連携を図りながら個に応じた指導をしていく。また児童が自主学習等、一人一人の課題や興味・関心に応じた課題に取り組むことができるような指導をしていく。</p>	<p>児童アンケート⑤</p> <p>79 49 30 15 6</p> <p>保護者アンケート②</p> <p>77 42 35 20 3</p>
		<p>年度末</p> <p>C</p>	<p>◇保護者の評価は3ポイント上がってB評価となったが、児童は6ポイント下がり引き続きC評価だった。多くの児童は、宿題等与えられた課題はできているが、学年に応じた時間が取れていないことが肯定率の低さにつながっていると思われる。 ◆すくすくカードの活用等を通して、児童一人一人の時間の使い方を振り返らせ、学習時間をしっかりと意識させていく。また、自主学習を取り入れるなど、個の課題に応じた家庭学習が進められるような手立てを考えていく。</p>	<p>児童アンケート⑦</p> <p>73 42 30 21 7</p> <p>保護者アンケート②</p> <p>80 34 46 17 3</p>
	<p>指標⑥ 毎日家庭読書をしているか。</p> <p>目標値 児童・保護者の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	<p>中間期</p> <p>D</p>	<p>◇児童62%、保護者42%と、ともに肯定率はすべての質問項目の中で最も低くD評価である。図書の貸し出しを利用する児童にも個人差が大きい。学校では週に2日朝読書の時間を設定したり、読み聞かせを行ったりして読書の時間を確保するようにしているが、家庭で読書をする習慣がないことやそのための時間を確保することが難しいことが肯定率の低さにつながっていると考えられる。 ◆夏季休業中の課題として、各学年読書の宿題を設定した。また、2学期には新しく購入した図書の貸し出しが始まったり、読書週間の取組も計画されたりしている。まずは本に興味を持つことができるように働きかけていく。</p>	<p>児童アンケート⑥</p> <p>62 36 26 23 16</p> <p>保護者アンケート④</p> <p>42 11 31 39 19</p>
		<p>年度末</p> <p>D</p>	<p>◇児童59%、保護者44%と、中間期と比べてもあまり変化は見られない。新刊コーナーやおすすめの本コーナーを設置したが、一部の児童のみの利用にとどまっている。家族読書も実施したが、家族で読書に親しむことが難しい。家庭での過ごし方で、読書以外の選択肢(テレビやゲーム等)が増えたため、意識しないと読書に取り組めない現状がうかがえる。 ◆毎週水、金曜日には全校児童が本を借りる等の手立てを講じ、児童一人一人が図書室を利用する機会を作る必要がある。また、ノーマディアデーの日に家族で読書に取り組むなど、保護者への啓発を行い、連携を図る。</p>	<p>児童アンケート⑧</p> <p>59 29 30 24 17</p> <p>保護者アンケート④</p> <p>44 10 34 35 21</p>
	<p>学校関係者評価委員の意見</p>	<p>○日頃の学校での学習指導が定着しているように思われる。個に応じた指導が大切 ○家庭学習については、学年が上がるほど時間の確保が難しくなり、声掛けなど家族の協力も必要だと思う。 ○学校での読書時間には限界がある。そのため、家庭内で読書の時間を設定するとい、そのためにも親子読書はよい取組だと思う。その取組が読書のきっかけとなればいい。 ○短い時間でも学習の定着が図れるようにICTの活用や自主学習の内容があれば取り組みやすいのではないかと。 ○子どもたちが生活時間を見直し、時間確保させることが必要。 ○ICTの活用は大変いいこと。今後必要なスキルなのでどんどん活用していけばありがたい。</p>	<p>学校の対応</p>	<p>○授業改善やICTの活用により個に応じた指導に取り組む。また、取り残される児童がないよう、昼休みや放課後の時間を活用して、計画的に補充学習を行う。 ○新しく購入した本や、各教員のお薦めの本を紹介し、子供たちに読書の楽しさを伝える。家庭読書の取り組みとして、2学期は、親子読書を実施し、家族で読書に取り組めるようにする。 ○児童の家庭学習の習慣化については、習い事やスポーツの活動で忙しく過ごす児童も多いが、自分の生活時間を振り返り、学習や読書の時間を確保出来るよう計画を立てさせる。</p>
		<p>○家庭学習の内容は、宿題なのか予習なのか自主学習なのか、定着していない苦手分野を自主学習することを宿題にし、個に応じた課題を設定してはどうか。 ○クロームブックを使った宿題は、子どもたちが空いた時間に取り組んでいる。活用の仕方次第で学習習慣に定着に利用できるのではないだろうか。 ○家庭学習・読書については、各家庭での取組となるが、生活のリズムなど各家庭で様々で、すべてをこなすことが難しくなっているように思う。その中で、生活時間を割り振り、無駄を省き、自分をコントロールする力をつけさせることができればと思う。保護者の意識改革と協力が重要となってくる。 ○家庭読書では、個に応じて活字に慣れるところから始めてもよいのではないかと。</p>	<p>○補充学習を前提とせず、授業の中できちんと理解させることができるよう対話的な学びを推進し、子ども同士で学び合うことができる授業改善を進める。 ○家庭学習・読書など家庭での取組に関して、家庭での時間の使い方を振り返り、自分をコントロールできるような家庭の居力が得られるよう啓発を行う。 ○学年に応じた学習時間を児童自身に意識させるため、自主学習の手引を作成していい。 ○家庭学習の内容に関して、クロームブックを活用したり、個に応じた目的を設定にしたりして、宿題の出し方を見直す。 ○全校児童が図書室を利用する日を設定し、本に親しまれる機会を設けるとともに、借りる本についても、個に応じたものになるよう声掛けをしていく。</p>	

3 強い子

健やかな体を育てることに努める	<p>指標⑦ 「早寝・早起き・朝ごはん」ができているか。</p> <p>目標値 児童・保護者の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	中間期	B	<p>◇朝ごはん摂取率については、すくすくカードや健康観察時の調査でも、90%以上であり、目標は達成できているがバランスが取れているとは言いがたい。睡眠については、調査では毎日ではないが、夜更かしている児童が数名いる。ゲームやテレビの時間が多いのも一つの要因となっている。</p> <p>◆すくすくカードや健康観察時の調査・指導の継続や学校だより・保健だより・食育だより等で啓発活動を行うとともに、R4年度から食育推進校指定も受けており、学校全体で食に関する指導を進めていきたい。</p>	児童アンケート⑦	89	58	31	7	4
		年度末	B	<p>◇食生活アンケートからも9割近くの児童が毎日朝食を摂取できている。しかし、朝食内容に関しては、主食のみの児童が44%を占め、バランスがとれているとは言いがたい。すくすくカードの朝食の調査でも、①ごはん・パン・めんなど④果物・牛乳・乳製品の組み合わせが多い傾向がある。睡眠については、高学年の就寝時間が遅い傾向があるとともにゲーム等の使用時間も増えている。</p> <p>◆朝食については、食育だよりによる啓発を中心に進めて行く。睡眠・ゲーム等については、懇談会で「テレビ・ゲーム・スマホ時間結果」を見てもらうことと、「小中学生のネット端末使用に関する町内統一ルール」のコピーを再度配布し、家庭でのゲーム等の使用のルールを見直すようお願いしている。</p>	児童アンケート⑨	87	50	36	11	3
	<p>指標⑧ 外で元気に遊んでいるか。</p> <p>目標値 児童・地域住民の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	中間期	C	<p>◇学校生活において休み時間は、多くの児童が運動場で元気に遊んでいる。特に昼休みに多くの教員が児童とともに遊んでいる姿が見られる活気があると感じる。しかし、外で遊びたくない児童やお直しで遊びに出ることができない児童がいることもある。また、家庭生活においては、外で遊ぶ児童が少ないと予想されることやコロナ禍による制限もありC判定となっていると思われる。</p> <p>◆教員による外遊びの継続や学級遊びの活性化で外で元気に遊ぶ児童を増やしていきたいと思う。</p>	児童アンケート⑧	70	45	25	14	4
		年度末	A	<p>◇昼休みに行っていたお直しの時間の改善により、6年生が1年生と遊ぶ姿が多くみられる。また、学級遊びの設定や中間期と同様教員が児童とともに遊ぶことで評価がよくなったと思われる。</p> <p>◆寒くなり外遊びの減少が予想されるが、体育科で行っている縄跳びの練習など、授業から休み時間の活動へつなげたり、教員を中心とした積極的な声掛けや児童会の全校遊びの提案等行ったりする。</p>	児童アンケート⑩	80	56	25	13	7
学校関係者評価委員の意見	<p>○きょうだい関係など家庭環境によって生活スタイルが異なり、リズムが崩れてくる子もいる。</p> <p>○夜更かしは早起きの妨げになるが、夜遅い食事朝ごはんが食べられないなどの原因となる。簡単にできるバランスの取れた朝食レシピなど紹介してあげたいと思う。</p> <p>○基本的な生活習慣について家庭でしっかり考え取り組むことが大切。朝食の大切さを具体的に理解させることが必要。</p> <p>○コロナにより休日お家で過ごすことが多いため、ゲームやテレビの時間がかなり増えている。</p>		学校の対応	<p>○朝の会の健康観察で生活時間の確認をしたり。定期的にすくすくカードに記録したりすることで、自分の生活を振り返らせるようにしている。今後、それらの結果を保護者にも返し、各家庭で子供の生活時間について保護者とともに振り返る機会を持つ。</p> <p>○夏休みに毎年恒例の朝ごはんレシピを各家庭で取り組んでもらった。今後、その結果を紹介し、各家庭でも取り組んでもらえるように呼びかける。また、現在、食育推進指定を受けており、食の大切さを含めて、子供たちだけでなく、保護者にも学校だより、保健だより、食育だよりを使って情報発信し、啓発していく。</p>						
	<p>○食に関してPTAで研修する機会を設けるとよいのではないか。</p> <p>○早寝・早起き・朝ごはんは各家庭での対応となる。生活のリズムを整えるために、やはり親子で生活時間の見直しが必要になってくる。</p> <p>○ゲームやテレビの時間については、家庭でのルール決めが重要だと思う。</p> <p>○制限がある中ではあるが、元気に外で遊ぶ姿を見られるのはいいことだと思う。</p> <p>○異学年との交流で子どもたちが学ぶことも多いと思う。少しずつ交流の機会を増やせるといい。</p>			<p>○食育だよりに加えて、給食委員会が行う給食放送時の食育タイムやおにぎり弁当の日など機会を見て、児童、保護者への啓発を行っていく。</p> <p>○すくすくカードを利用して児童の生活についての実態を把握し、必要に応じて学級活動や学級通信、懇談会等で生活習慣を振り返らせたり、ネット端末使用のルールの見直しを行っていく。</p> <p>○縄跳びなど休み時間や家庭で取り組める体力づくりについて体育の時間の活動から広げていく。また、卒業する6年生との思い出作りなど児童会が中心となって異学年が交流できる機会を設定する。</p>						

4 生徒指導

生徒指導の徹底と健全育成に努める	<p>指標⑨ 楽しく学校生活を送っているか。</p> <p>目標値 児童・保護者の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	中間期	A	<p>◇児童、保護者共に肯定率は90%を超えており、A評価である。前年度と比較しても児童は6ポイント上昇しており、「全くそう思わない」と回答した児童が4ポイント減っており全体的に楽しく学校生活を送れている児童が増えているといえる。一方で「あまりそう思わない」と回答した児童も7ポイントあり、全教職員で注意深く見守っていくことが大切である。</p> <p>◆組織的で、迅速に対応し、早期発見、早期解決していく。そのために、アンケートや児童を見つめる会を通して確実に情報共有を行い、家庭と連携をしていく。また、教職員が一人で問題を抱えることがないように、お互いに声を掛け合い、外部機関への協力依頼も積極的に行っていく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>児童アンケート⑨</td> <td>93</td> <td>71</td> <td>21</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>保護者アンケート⑤</td> <td>95</td> <td>67</td> <td>28</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </table>	児童アンケート⑨	93	71	21	6	1	保護者アンケート⑤	95	67	28	5	0
		児童アンケート⑨	93	71	21	6	1										
保護者アンケート⑤	95	67	28	5	0												
年度末	A	<p>◇児童、保護者共に肯定率は中間期と変化なく、90%を超えており、A評価である。中間期と比較して、保護者のポイントはほとんど変化がないが、児童の意見の「全くそう思わない」との回答が増えており、楽しく学校生活を送れていない児童が増えている。保護者や教諭が気付いていない可能性もあり、全体の評価にかかわらず、注視が必要である。</p> <p>◆引き続き、組織的で迅速な対応を行っていく。学級担任一人に負担がかかることのないように、学年主任や生徒指導主事、学級にかかわる専科教員でチームを組み、複数の支点で児童を見守っていったり、アンケートや教育相談を実施したりして早期発見、解決をしていく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>児童アンケート⑩</td> <td>93</td> <td>71</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>保護者アンケート⑤</td> <td>95</td> <td>68</td> <td>27</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </table>	児童アンケート⑩	93	71	22	4	3	保護者アンケート⑤	95	68	27	5	0		
児童アンケート⑩	93	71	22	4	3												
保護者アンケート⑤	95	68	27	5	0												
学校関係者評価委員の意見	<p>○大多数の児童が楽しく学校生活を送れていることに安心したが、あまりそう思わないと回答した児童への対応が必要だと感じる。</p> <p>○何が不安で学校が楽しくないと感じているのか子どもたちが話せる場はあるのだろうか。</p> <p>○情報モラル教育を低学年段階から行うといい。</p> <p>○否定意見の回答をした児童の把握とその理由や状況についての把握など繊細な対応が必要。</p> <p>○楽しい学校生活を送れていない児童について、保護者が気付いているのかが気になる。</p> <p>○学校が楽しくないという子が、なぜそう思うのか相談できるような仕組みがあると不安な気持ちを吐き出しやすいと思う。</p>	学校の対応	<p>○学校生活を楽しくないと思っている児童について全教職員で共通理解を図り、日頃の生活の様子等、複数の職員が目で見守る。</p> <p>○子供たちが日頃感じていることを気軽に話せることができるよう、学級だけでなく学校全体で、教育相談を計画する。</p> <p>○これまで行っていた高学年対象の情報モラル教育だけでなく、各学年に応じた情報モラル教育が行えるよう、カリキュラムの見直しを行ったり、えひめっ子情報リテラシーアプリなども活用したりして進めていく。</p> <p>○学校生活を楽しくないと思っている児童について、日頃の生活の様子等、複数の職員が目で見守り、児童を見つめる会で情報共有を図る。</p> <p>○1人の児童に複数の教員がかかわれるよう全校体制での教育相談を実施する。</p> <p>○えひめっ子情報リテラシーアプリの活用を全校で進める。</p>														

5 教職員

教職員の人間力・指導力・組織力の向上に努める	<p>指標⑩ 研修の自己研鑽に努めているか。</p> <p>目標値 教職員の90%以上が肯定割合(4+3)</p>	中間期	C	<p>◇教職員の肯定率は79%であり、目標を達成することはできなかった。自己研修のための時間を見出すことができないくらい、日々の業務に追われていることが要因だと思われる。</p> <p>◆夏季休業中など、時間に余裕のあるときに、研修の方向性の共通理解と日々の実践の情報交換を行い、みんなで足並みを揃えて研究を進めることができるようにしたい。そして、教職員がそれぞれ自己の課題と向き合い、進んで教育技術や指導法の改善に努めるために、ミニ研修の時間を確保する。また、ICT研修など、組織的なスキルアップを図る場を設定したい。</p>	<table border="1"> <tr> <td>教職員アンケート⑥</td> <td>79</td> <td>5</td> <td>74</td> <td>21</td> <td>0</td> </tr> </table>	教職員アンケート⑥	79	5	74	21	0
		教職員アンケート⑥	79	5	74	21	0				
年度末	B	<p>◇教職員の肯定率は89%となり、前回より10ポイント上回った。教材研究、臨時研修会、一人1回確実な研究授業によるものである。しかし、日々の業務の多さや煩雑さなどで、研修のための時間が取りづらいことは、まだまだ課題である。</p> <p>◆来年度からの「深い学び」に向けた研究のためにも、授業で共通して実践する内容の確認など、全体で足並みを揃える。食育部会と授業研究部会それぞれの取組について共通理解を図る機会を持ち、一丸となって進められる体制を確立していく。そのためにも、役割分担を細かく行い、教員一人一人が、研究を深める時間を確保できるようにする。</p>	<table border="1"> <tr> <td>教職員アンケート⑥</td> <td>89</td> <td>5</td> <td>84</td> <td>11</td> <td>0</td> </tr> </table>	教職員アンケート⑥	89	5	84	11	0		
教職員アンケート⑥	89	5	84	11	0						
学校関係者評価委員の意見	<p>○自己研修の時間を確保するためにも、働き方改革が必要ではないか。</p> <p>○働き方改革といわれるが、学校へはあまり浸透していないように感じる。町全体で取組、改善することが必要だと感じる。</p> <p>○限られた時間の中で、学習面だけでなく子どもたちの様子を見ておりありがたく思う。</p> <p>○新しいことや日々変化する状況で大変だと思う。</p> <p>○日頃の職務等にゆとりがなくては質の良い仕事はできないと思う。</p> <p>○日々忙しく勤務している状況の中で、研修の時間の確保は厳しいと思うが、肯定率が上がっているのはすごいと思う。</p>	学校の対応	<p>○夏季休業中にICT研修を複数回行い、クロームブックの活用についてどの学級も足並みを揃えて行えるようにした。今後、対話的な学びについての授業改善に向けた研修と合わせて、食育についても全校体制で研修を進めていく。</p> <p>○ただ勤務時間を減らすことを目的とするのではなく、自分の1週間の時間の使い方を振り返り、より効率的な仕事の進め方を探ったり、主任等の仕事を1人で抱え込まず、複数の教員で分担して行えるよう声を掛け合うようにする。</p> <p>○授業研究部会と食育部会相互の取組について共通理解を図る場を設け、教職員一人一人がそれぞれの取組をふまえた授業実践を行う。</p> <p>○来年度からの「深い学び」に向けた研究の前提となる対話的な学びについて、実践の具体を明確にし、全校、全教科で足並みをそろえて実践する。</p>								